



いのけんさん

26号
2016年1・2月号

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞
井の頭
吉祥寺
鷹

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと1年4ヶ月

絵せのうさこ 文瀬能けい子
1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

井の頭自然文化園

●「Visit ほっと Zoo 2016」開催中
冬にしか味わえない動物園・水族園の魅力満載のキャンペーンを実施しています。

- メインイベントはこの4つ!
1. みどころを「ほっとポイント」としてご案内!
 2. 「電車であらう! 動物園・水族園スタンプラリー」
 3. 「ほっと」な瞬間の写真を募集。「ほっとフォトコンテスト」
 4. この冬限定のメニュー・商品はおいしさ・楽しさ満載!

●文化園コンサート「February Concert at The Zoo」
毎年恒例のコンサート。寒い冬、皆さんの心をあたたくするような音楽を動物園からお届けします。

各日：13:30～ 場所：彫刻館B館 定員：150名

出演 2/7(日)「東京藝術大学 D年オーケストラ」
2/14(日)「遊佐未森」 2/21(日)「妹尾武」 2/28(日)「麻衣」



●夜の文化園コンサート
「February Concert at the Zoo_ Special Jazz Night」
毎年2月のコンサート特別編として夜の彫刻館で実施します。
日時：2/27(土) 18:00～19:30 出演：宮沢克郎他
※事前募集・有料のイベントです。



詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

- 「かいぼり27」魚類等捕獲イベント(お茶の水池・ポート池)
1月23日(土)、1月24日(日)
- 【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。
- あおぞら実験室(井の頭池付近) 1月17日(日)、2月7日(日)、3月6日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 1月10日(日)、1月24日(日)、2月14日(日)、2月28日(日)、3月13日(日)、3月27日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 1月28日(木)、2月25日(木)、3月17日(木)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

井の頭かんさつ会

- 第129回「冬の野鳥観察を楽しもう」 1月17日(日) 9:30～12:00
- 第130回「池底かんさつ会」 2月(実施日未定) 10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

1級渡邊安浩のいのけん受験講座答え合わせ

- Q1. ① 納涼花火 ② ミス井の頭 Q2. 外来 Q3. アライグマ

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その7

アジアゾウ と 宮路良一さん



井の頭自然文化園一の巨体で、日本最高齢のアジアゾウ、はな子。飼育員の宮路良一さんは、はな子を担当して3年目。昨年4月に4人チームのチーフを前任者から引き継ぎました。

まだ屋外にいたいのはな子を「おーい、おかえりー」のひと声で檻に呼び戻したり、つい好物のパンや甘いものから食べてしまうはな子に、必要な栄養分を含んだ蒸しニンジンをお口まで運んだり。厚い信頼関係は、じっくり時間をかけて育んできたといいます。「距離感を縮めようとして焦ってはダメ。初めは、そのうちはな子が認めてくれるだろうと、大きく構えていました。だんだん鼻で僕の体に触れることが増え、おとなしい目をして、いい時間を共有できているなあと感じられるようになって、今があります」

チームの全員が同じ立場で、責任感を持って飼育に当たることが、はな子にはもちろん、飼育員の身を守るためにも大切だと話します。「チーフの務めは、情報を伝えること。冗談を言って和ませるし、おやつを差し入れもします」と気遣いを忘れません。

どんな気分の日でも出勤した瞬間に気持ちを高揚させて、はな子やチームのメンバーには穏やかに接します。「僕はアクター」がモットー。ベテランの自信が垣間見えました。

小田原 潔 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩、三鷹市在住。

69歳になったはな子

はな子がタイから日本にやってきたのは1949年(昭和24年)、今から67年も前のことでした。当時2歳と推定されたはな子は、誕生日が不明なため、1月1日を誕生日としており、今年で69歳になります。

アジアゾウの日本長寿記録を更新し続けて4年目、当時から現在に至るまではな子は職員による徹底された温度管理(25号掲載)と特別メニューの食事によって、老齢ながら健康な暮らしを保っています。アジアゾウの歯は本来4本ですが、はな子には歯が1本しか残っていません。噛むことが難しいため消化の良い食べ物が必要となります。バナナは全て皮をむき、ニンジンもふかして柔らかくします。食事の時間ははな子の体調に合わせて1日数回、時に10種類以上にもなるメニューをはな子の前に並べ、選んで食べてもらっています。

はな子の69歳のお祝い会は、冬の寒さが和らぐ3月の予定です。毎年工夫を凝らした食べ物のプレゼントが用意されますが、今年のはな子は何が贈られるのでしょうか。楽しみにしていて下さい。

(井の頭自然文化園 教育普及係 阿部万純)



井の頭公園の生き物たち その26 ウキゴリ



絶滅か、復活か

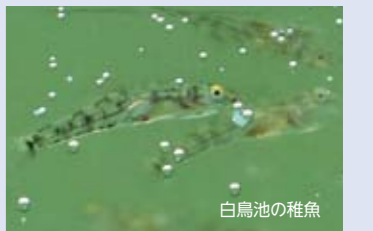
全長13cmに達する面長のハゼです。メスが岩などの下面に産み付けた卵をオスが孵化まで守ります。誕生した仔魚は海に下り、ある程度成長してから、群れて川を遡上します。初夏の荒川水系の川で、上流へ向かう稚魚たちが途切れることなく続く光景を見たことがあります。

井の頭池でウキゴリの姿を毎年見られたのが、水生物園の白鳥池でした。5月か6月、何匹もの稚魚が水中に浮かんでいるのがガラス壁から見えるのです。多くのハゼが少し成長すると底生生活に移るのに対し、この魚は稚魚がかなり大きく

なるまで浮遊生活を続けます。「浮きゴリ」という名の由来です(ゴリとはハゼのことです)。

その白鳥池のウキゴリが絶滅したようです。2015年は稚魚が確認されず心配していたのですが、今回の弁天池のかいぼりで1匹も見つかりませんでした。白鳥池は弁天池の一部です。ふわふわ浮かんでいる稚魚はオオクチバスなどに捕食されやすく、生存率が低そうです。白鳥池のウキゴリは海へ下らずに成長していたと考えていますが、かいぼりのために弁天池とポート池の間に仕切りができたことは、新たな稚魚の遡上を難しくしたかもしれません。

2014年1月のお茶の水池などのかいぼりでも、ウキゴリは1匹も見つかりませんでした。昔から井の頭池にいたこの魚が全池で絶滅となりそうでしたが、幸い、2015年にはお茶の水池の網に何度も入るようになりました。2014年6月に白鳥池に現れた稚魚を20匹ほど捕獲して、かいぼりで外来魚が減ったお茶の水池に放流したことがあり、それが獲れたのかもしれない。しかし、ひょうたん池でも稚魚が何度か網に入ったことから、神田川から遡上してきたものが多いと考えています。神田川も改修が行われ、小さな滝(段差)ができるなど、昔とはだいぶ違う川になりました。しかし、池と川と海の連続性は、その間を行き来して命を全うする生き物には、昔も今も欠かせないことです。



白鳥池の稚魚

26

カイツブリの眼



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

来園者に情報を提供する「かいぼりステーション」に、かいぼり隊が制作した巨大な張り子のカイツブリがいます。すばらしいですが、前方から眼が見えないのが私としては気になっています。前号の写真でも分かるように、本物のカイツブリは両眼が見えます。逆に言うと、カイツブリは前方を両眼で見ることができません。逃げ回る小魚をぱっとくわえ捕るには、獲物との距離を正確につかめる両眼視が欠かせません。とはいえ、眼を実際のように頭のななめ前に置くと表情がきつくなるので、可愛く見えるように少しずらしたのでしょうか。かんさつ会のシンボルマークも同じです。

本物のカイツブリを横から見ても前から見ても、瞳が眼球の中心に見えることにお気づきでしょうか? ハンターであると同時に、天敵から狙われる存在でもある小さなカイツブリは、前方も側方も見える広い視野を持っているのです。生き物の形はその生活と密接に関連しています。



井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/